

25	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13852013	強磁場が齎す結晶配向機能の実用材料への展開	浅井 滋生 (名古屋大学・大学院工学研究科・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>本研究は強磁場下で作製した材料を配向させ、材料として付加的な機能を付与することで高機能化を図る、実用化を視野に入れた応用的研究である。申請時の柱であったFePt垂直磁化膜の作製やラジカル反応に及ぼす磁場の影響に関する研究が2年目から変更され、一方で一軸結晶配向成塑体の創成へと方針が転換された。その結果、水酸アパタイト、Si_3N_4、Bi_2Te_3等の材料の作製では一定の成果を出している。科学研究費は研究計画調書に記述された内容に対して審査が行われ、採択された場合は、その内容を実行することが通常である。その点では研究課題という大枠では成果が出ているものの、研究開始2年目から大きく研究内容が変更されたことは、研究計画調書作成段階での方針策定が不十分であったと考えられる。</p>				
26	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13853005	MCL 温熱療法の免疫賦活機構の解明とガン治療への応用	小林 猛 (中部大学・応用生物学部・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>本研究の目的は、表層にがん特異的抗原を提示したりポソームに発熱体であるマグネタイト微粒子を封入して、がん細胞へターゲティングし、がん組織だけを加温する温熱療法を確立するものであるが、見事に期待以上の成果をあげている。加温により、熱ショック蛋白質が発現し、これが免疫増強につながることで、がん細胞特異的ペプチドと複合体を形成し、T細胞を活性化するなどの高い研究成果も得ており、関連研究分野への波及効果も大きい。臨床適用への可能性も高く、現在のがん治療の主流である外科手術、化学療法に加えて、あるいは併用療法としての活用が今後大いに期待される。</p>				